



輸出品目別レポート タイ（鯛）

■品目説明

タイは、広義にはスズキ目タイ科の総称、狭義にはタイ科のマダイを指す。アマダイやキンメダイ、ネンブツダイといった名前に「タイ」が付く魚は、300 種類以上存在する中、分類学的にマダイと同じタイ科に含まれる近縁種は、日本近海では約 13 種類にすぎない。農林水産省の漁業生産統計などでは、タイ類としてマダイ、チダイ、キダイ、クロダイ、ヘダイを含んでいる。

このタイ類としての 2023 年の漁獲量は 2 万 3,275 トン。都道府県別にみると、長崎県（4,121 トン）、兵庫県（2,134 トン）、福岡県（2,126 トン）、愛媛県（1,439 トン）、島根県（1,382 トン）などで多く漁獲されている。他方、マダイ養殖については、6 万 7,257 トンとなり、マダイは天然の水揚げ量よりも養殖による生産量のほうがはるかに多く、市場への安定供給に寄与している。都道府県別では、愛媛県（3 万 7,893 トン）、熊本県（9,386 トン）、高知県（7,775 トン）などで多く養殖されている（出所：農林水産省「[海面漁業生産統計調査](#)」）。

近年では、養殖魚の差別化をするために、養殖・給餌方法に工夫を施すような取り組みもなされている。愛媛県の「みかん鯛」は、未利用資源であるみかんの皮を混ぜた餌料を養殖魚に与え、血合いの褐変化の抑制や養殖魚特有の臭みの軽減を可能にした。また、高知県でも、「直七真鯛」「乙女鯛」「海援鯛」といった養殖魚のブランド化に取り組んでいる。

そのほか、関連する業界団体として、「[全日本海水養魚協会](#)」や「[全国漁業協同組合連合会](#)」、「[日本養殖魚類輸出推進協会](#)」などがある。また、[一般社団法人大日本水産会](#)があり、[水産物・水産加工品輸出拡大協議会](#)が積極的に日本産水産物のプロモーション活動や海外・国内における輸出商談への支援などを実施している。

■輸出概況

日本のタイ類の輸出額が 2023 年に前年比 16.1%減の 4,740 万ドル、数量ベースで同 27.2%減の 6,972 トンとなった。輸出相手国 1 位は韓国で、前年比 10.5%減の 3,338 万ドル、数量ベースで 15.9%減の 4,654 トンだった。2 位は米国向けで同 8.6%増の 519 万ドル、数量ベースで同 10.5%増の 421 トンとなった。3 位は、台湾向けで同 3.6%減の 329 万ドル、数量ベースで同 0.7%増 448 トンとなった。

また、2024 年のタイの輸出額は、69 億 400 万円（前年比 4.8%）となった（出所：農林水産省「[令和 7 年（2024 年）農林水産物・食品の輸出額](#)」）。

なお、タイは、[農林水産省の輸出拡大実行戦略（2025 年 5 月）](#)の輸出重点品目の一つであり、2030 年までに全体 204 億円（うち韓国 100 億円、米国 27 億円、台湾 30 億円など）



を目標としている。「飼料高騰等に伴う経営負担の軽減による増産促進」、「養殖タイの安定供給に向けた生産体制の構築」、「販路開拓に向けた輸出先国の現地嗜好に合わせた製品開発」などが課題として挙げられている。

▼表1：日本のタイ輸出

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
韓国	29,967,357	4,840	37,304,727	5,535	33,380,188	4,654	△ 10.5	△ 15.9
米国	3,246,931	260	4,784,373	381	5,197,463	421	8.6	10.5
台湾	3,466,678	414	3,423,865	445	3,299,486	448	△ 3.6	0.7
香港	2,566,490	252	2,844,149	358	1,788,589	246	△ 37.1	△ 31.3
中国	2,579,983	773	3,551,392	1,157	1,567,742	407	△ 55.9	△ 64.8
全世界	45,836,092	7,885	56,522,921	9,579	47,405,569	6,972	△ 16.1	△ 27.2

注：対象はHSコード 0301.99-100, 0302.85, 0303.89-300

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

また、さらなる輸出拡大のため、海外の規制やニーズに対応して継続的に輸出に取り組み、輸出取組の手本となる産地として、[フラッグシップ輸出産地](#)がある。マダイの輸出促進の取り組み事例として、[愛媛県の愛南漁業協同組合](#)がある。同組合は、主にマダイを養殖する組合員で構成されており、2005年に愛南地区の7つの漁協が合併して誕生した。同組合の米国向けマダイは、産地、輸出業者、輸入業者が連携し、一気通貫で販売することで、価格変動の影響を受けにくい「愛南の真鯛」のブランド形成を行っている。このほか、同組合はカナダ、タイなどにも輸出をしている。

加えて、[愛育フィッシュ輸出促進共同企業体](#)では、愛媛県宇和島市・西予市・南宇和島郡愛南町の加工会社および漁業協同組合を構成し、愛媛県産養殖魚「愛育フィッシュ」という名称を用いて、韓国、台湾向けなどに現地商談会やプロモーション活動に取り組んでいる。同企業体では、さらなる輸出促進に向けた規制や海外ニーズへの対応として、米国・EU向けに HACCP 施設認定を取得した。

■海外事情

●韓国

韓国による2023年のタイ類輸入額は、前年比10.8%減の3,672万ドル、数量ベースで同14.4%減の4,496トンとなっている。輸入相手国1位は日本で前年比9.7%減の3,627万ドル、数量ベースで同13.4%減の4,442トンとなっている。2位は中国で前年比55.1%減の44万ドル、数量は同55.8%増の53トンであった。

水産庁「[養殖業成長産業化行動計画（案）マダイ編（2020年）](#)」によると、以下のようまとめている。

・海外市場の開拓には、対象となる輸出先国の現状の輸出実績や将来の可能性に応じて、対応方針を細分化する必要があるとし、韓国においては、有望な市場と捉え、現地での競争



優位を維持しつつ、既存市場シェアの確保とさらなる向上を図る。

- ・韓国では、もともと白身魚を珍重し、かつ現地にはマダイの生食文化が根付いていることから、裾野拡大を図ることが重要。
- ・さらなる市場開拓に向けては、日本食を中心としたハイエンド層からハイミドル層へのアプローチが必要。

▼表2：韓国のタイ輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
日本	35,503,381	4,681	40,197,177	5,130	36,279,480	4,442	△ 9.7	△ 13.4
中国	6,394,605	717	988,510	120	443,972	53	△ 55.1	△ 55.8
インドネシア	43	0					－	－
全世界	41,898,029	5,398	41,185,687	5,250	36,723,452	4,496	△ 10.8	△ 14.4

注：対象はHSコード 0301.99-4090 (2021年) , 0301.99-4000, 0301.99-4091 (2022年～2023年)

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

●米国

米国による 2023 年のタイ類輸入額は、前年比 10.8%増の 1,598 万ドル、数量ベースで同 2.4%増の 1,629 トンとなっている。輸入相手国 1 位はニュージーランドで前年比 4.8%減の 405 万ドル、数量ベースで同 9.3%減の 527 トンとなっている。2 位はギリシャで前年比 36.2%増の 403 万ドル、数量は同 17.1%増の 465 トンであった。3 位は日本で前年比 5.2%減の 369 万ドル、数量ベースで同 7.8%減の 260 トンであった。

▼表3：米国のタイ輸入

(単位：ドル、トン、%)

	2021年		2022年		2023年		前年比	
	金額	数量	金額	数量	金額	数量	金額	数量
ニュージーランド	3,436,724	540	4,255,571	581	4,052,169	527	△ 4.8	△ 9.3
ギリシャ	2,054,907	224	2,963,206	397	4,034,954	465	36.2	17.1
日本	3,151,333	218	3,894,841	282	3,691,422	260	△ 5.2	△ 7.8
スペイン	585,130	47	1,079,898	87	1,669,483	136	54.6	56.3
トルコ	1,039,652	153	1,327,252	195	1,148,749	181	△ 13.4	△ 7.2
全世界	10,911,084	1,219	14,429,716	1,591	15,982,721	1,629	10.8	2.4

注：対象はHSコード 0302.85

出所：Global Trade Atlas (IHS Markit) より作成

ジェトロ「[米国への農林水産物・食品の輸出に関するカントリーレポート（水産物）（2025年3月）](#)」によると、次のようにまとめている。2025 年 1 月に、愛媛県において米国とカナダのバイヤーとともに、養殖所の視察と商談会が実施された。バイヤーからは、「初めての日本養殖場視察で、日本水産物に対する安心感が高まった」や「この様子を顧客に伝え、今後の販売拡大につなげたい」などとコメントがあった。ストーリー性のある商品や柑橘の香りがするタイやブリなどは、魚臭さを嫌う欧米のバイヤーにマッチしていると、評価が高か



った。

水産庁「[養殖業成長産業化行動計画（案）マダイ編（2020 年）](#)」によると、米国は台湾、香港、中国とともに有望な輸出市場と捉えている。現地では日本食が広く浸透しており、日本食レストランも多く展開されている。特にハイエンド層およびハイミドル層を対象とした寿司店での需要が中心で、市場規模が限られ競争も激しいことから、既存市場でのシェア維持に加え、価格競争力の強化が求められる。米国向けに調達基準を満たしたマダイの生産を拡大し、安定供給を図るとともに、現地の食嗜好に合わせた加工度の高い商品を開発することが求められる。

・ジェトロ「[米ボストンの世界最大級の水産見本市、ジャパンパビリオンに 19 社・団体出品\(日本、米国\)（2025 年 3 月 31 日記事）](#)」

・ジェトロ「[「水産王国えひめ」、北米バイヤー招聘で見えた魅力と課題、挑戦 | 地域・分析レポート（2025 年 3 月 3 日）](#)」

●その他

・香港 PF「[品目別カンントリーレポート（水産物）（2024 年 11 月）](#)」

・ジェトロ「[日本養殖魚類輸出推進協会が香港で初のイベントを開催（香港）（2023 年 12 月 20 日記事）](#)」

・台湾 PF「[品目別レポート（水産物）（2024 年 4 月）](#)」・[日本産養殖真鯛と日本産サーモンのおろし方・料理の公開講座を開催\(タイ\)| ビジネス短信](#) —ジェトロの海外ニュース - ジェトロ（2025 年 8 月）

また、日本政策投資銀行「[養殖業の新たなフードチェーン構築に向けた基礎調査～愛媛県のマダイ養殖を例に～報告書](#)」、水産物・水産加工品輸出拡大協議会「[海外マーケット調査資料](#)」では諸外国における日本産水産物のマーケット調査などの資料を公開している。

さらに、[JFOODO](#) では、香港や台湾などで、認知率の向上と消費の拡大を目指し、タイをはじめとする日本産水産物のプロモーション活動を行っている。

ジェトロ「[現地市場価格調査](#)」では、海外主要都市におけるタイの市場価格をまとめている。

また、タイを含む水産物の輸入規制、輸入手続きに関して、[ジェトロのポータル](#)にて、香港、台湾、韓国、中国、シンガポール、マレーシア、インドネシア、タイ、ベトナム、フィリピン、インド、ミャンマー、UAE、サウジアラビア、米国、カナダ、ブラジル、メキシコ、オーストラリア、EU、英国、ロシアをまとめている。



本レポートに関する問い合わせ先：
日本貿易振興機構（ジェトロ）
農林水産食品部 市場開拓課 調査チーム

〒107-6006
東京都港区赤坂 1-12-32 アーク森ビル
TEL：03-3582-5186

【免責事項】

本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できる限り正確な情報の提供を心がけておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。